

令和4（2022）年度 資源評価調査状況報告書（新規拡大種）

ブロック：西海ブロック

ソデイカ

| | | | |
|----|-----------|------|--|
| 海域 | 太平洋鹿児島・沖縄 | 参加機関 | 水産研究・教育機構 水産資源研究所 浮魚資源部、鹿児島県水産技術開発センター、沖縄県水産海洋技術センター |
|----|-----------|------|--|

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報収集調査を実施
- ・各県は漁獲統計調査を実施
- ・本年度は資源評価調査報告書の作成は行わず、漁獲統計等の更新および関連情報の収集を実施

(2) データ収集状況

- ・鹿児島県では2007～2021年の漁獲量を収集済み
- ・沖縄県では1998～2021年の漁獲量を収集済み
- ・一部の県および水産資源研究センターにて精密測定を実施した。両県の一部の漁船からCPUE計算のためのデータを収集した

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：本種は、主に世界中の熱帯・亜熱帯海域に分布する外洋性の大型イカで、暖流の影響を受ける一部の温帯・冷帯海域まで分布している。詳しい回遊経路は不明であるが、海流による受動的な回遊を行っていると考えられている。Ohshimo et al. (2022) はソデイカの未成熟個体は6月には九州西・南海域で多く採集され、その後太平洋や日本海に拡散することを示した。また炭素・窒素安定同位体比の解析から、日本海・東シナ海と太平洋ではそれらの値が分かれている（系群は同じと想定）と考えられた
- (2) 年齢・成長：沖縄県海域における市場調査と調査船による漁獲調査の外殻長組成から、7月時点で30～40 cmの個体群が、翌年3月頃には70～80 cmに成長すると考えられ、寿命は約1年と推定されている（川崎 1992）。鹿児島県海域では情報なし
- (3) 成熟・産卵：沖縄県海域での産卵期は2～7月の間で、8月以降も続いている可能性がある。成熟は、雌が外殻長65 cm前後、雄が70 cm前後からとされている（川崎 1992、1993）
- (4) 被捕食関係：沖縄県海域では、ハダカイワシ類、タチウオ類などの魚類やツメイカ類などのイカ類を主に捕食しており、加えてエビ類を捕食している（川崎 1993）。小笠原海域ではハダカイワシ類やホタルイカモドキなどを捕食している（安藤ほか 2004）

(4) 備考

・資源評価調査報告書については令和3年度に作成および公表済み

引用文献

安藤和人・錦織一臣・土屋光太郎・木村ジョンソン・米沢純爾・前田洋志・川辺勝俊・垣内喜美男 (2004) 小笠原海域におけるソデイカの漁業生物学的特性. 東京都水産試験場研究報告, **213**, 1-22.

川崎一男 (1992) ソデイカの漁場形成と生態. 沖縄県水産試験場事業報告書, 8-20.

川崎一男 (1993) ソデイカの漁場形成と生態. 沖縄県水産試験場事業報告書, 5-20.

Ohshimo, S., T. Kodama, A. Tawa, H. Tanaka, Y. Tanaka, G. Yasuhara, M. Tokuyasu, and Y. Minami (2022) Distribution and geographical differences of stable isotope ratios of diamond squid, *Thysanoteuthis rhombus* (Cephalopoda: Thysanoteuthidae), in the around waters off Japan. Fisheries Oceanography, <https://doi.org/10.1111/fog.12627>